

研究者 小林厚志（屋代高校附属中）

共同研究者 西 一夫
（信州大学 教育学部 教授）

自らの学びを語り合い、 新たな価値を創出する授業

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が重要視されていますが、それが「孤立した学び」と「単なる発表の場」になっているのではないかという課題を感じてきました。そこで、①生徒が自ら語りたくなる題材や場面の設定、②自らの学びを友と語り合う場面の設定、③教師による個と個をつなぐ発問、の三つを重点に、「自らの学びを語り合い、新たな価値を創出する姿」を目指して授業づくりを行っています。

「①生徒が自ら語りたくなる題材や場面の設定」に関わっては、本校で2か月に1回程度行われる「オンライン授業・探究学習日」において、象山神社（長野市松代）にある佐久間象山『省魯録（せいけんろく）』の碑文など、地域の素材を取り上げて現地から授業を行いました。「漢文を読めるようになると、色々な昔の物が読めるようになり、世界が広がると感じた」と感想を記す生徒もあり、身近な素材を取り上げることで主体的に学習に取り組む姿を見ることができました。

「②自らの学びを友と語り合う場面の設定」については、複数の着眼点に応じて分担して学習を進め、それらを統合する活動を行っています。『握手』（4月）においては、①握手、②指言葉、③その他の手の動き、④物語中の時間、⑤情景描写という5つのテーマに分かれて追究を進め、他のテーマの生徒と発表し合うことで、多角的に作品を読み深める姿が見られました。

「③教師による個と個をつなぐ発問」は、教師の即興性によるものだけではなく、その背景に十分な教材研究と指導計画を必要とするものであると考えています。そこで、古典文学の専門家である西一夫先生にご助言をいただきながら、本単元で扱う複数の古文について教材研究を進めています。

当日は、生徒が身近な題材を含む複数の文章を比較する中で探究したことを持ち寄り、それを友と語り合う中で、題材の新たな魅力や価値を共に発見する姿を見ていただきたいと思います。



共同研究者 西先生から

地域と関わる素材を読みくらべる活動を通して素材への興味関心を高めることができます。これによって生徒相互の関係を構築しながら個々の学びを深める契機となる工夫が埋め込まれています。今回の実践は地域の古典素材を読むことを通して地域への関心を深め、多角的な視点の獲得や思考の広がりをもたらすことになると言えます。



～日程～

- ① 受付 12:50～13:10
- ② 開会式 13:15～13:30
- ③ 授業参観 13:40～14:35
- ④ 授業研究会 14:50～16:25
（西先生のご講演を含む）
- ⑤ 閉会式 16:25～16:30